

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	平成25年第4回武蔵村山市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成25年1月31日（木）午後2時00分～4時00分
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：野田浩二、諸江大、池田まさ子、菊地茂、牧一彦 小野吉雄、西田勇、吉澤幹郎、吉田邦子 欠席者：菅原典子 事務局：環境課長、環境課主査（ごみ対策グループ） 環境課主任（ごみ対策グループ） 環境課主事（ごみ対策グループ）
議 題	1 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画の改訂について 2 その他
結 論	議題1について 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第3章、第4章の改定案についての説明を行う。 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第2章に記載する目標値を決定し、目標達成するために必要な施策について議論する。 議題2について なし
○事務局等 ●委員	○ 武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第3章、第4章の改定案についての説明を行う。武蔵村山市一般廃棄物処理基本計画第2章の修正案について説明を行う。修正案については、計画の数値目標の持込ごみ量の目標値を、現在の事業所数や人口、経済状況等を考慮し、2,000 tに修正している。 事務局で設定した目標値を達成する為に減量すべき具体的な数値について説明を行う。 事務局で設定した目標値（排出物原単位 735 g 以下、収集ごみ量原単位 645 g 以下、持込ごみ量 2,000 t 以下、エコセメントの量を除くリサイクル率 29%以上。エコセメントの量を含むリサイクル率 39%以上、循環組合への搬入量としての最終処分量 1,700t 以下、循環組合への不燃ごみ埋め立て量としての最終処分量 16.3 t 以下）に決定でよろしいか。 ● 異議なし

- 設定した目標値を達成する為にはどのようにすれば良いかということが、第5章に向けてのテーマとなる。第3章には、ごみ減量・資源化の課題についての記載があるが、今回はさらに一步進む為、よりごみ減量、資源化するための具体案等があれば、ご意見をいただきたい。
- 市では集団回収を推進しているが、どのような意図で推進しているのか。
- 奨励金制度を実施することにより、資源物の回収量を増やし、廃棄物の発生抑制を行う為、実施している。
- 奨励金を下げてみても良いのではないか。
- 団体の活動資金としても、役に立っている為、現在、議会等の意見では、上げてほしいとのことである。
- 市によっては、奨励金の仕組みがそれぞれ違うのか。
- 市によって、それぞれ違う。
- 例えば、市民が自身で業者に資源物を搬入し、奨励金申請をしなかった場合、市のごみとして計算されるのか。
- 市のごみとして計算されない。その為、新聞等の資源物は、市のごみとして出すよりも、自身で新聞業者等に回収してもらったほうが、市としては回収費用も掛からず都合が良い。
- 生ごみが一番多いので、生ごみを上手に減らす方法はないか。
- 武蔵村山市で、過去に生ごみ堆肥化モデル事業を行った際は、現在の焼却処理よりも約10倍の費用が掛かってしまい、また、できあがった堆肥についても行先が確立されていないという問題があった。現在は、問題を克服できる違う方法でモデル事業が実施できれば良いと考えている。
- 今後は、高齢化が進む為、生ごみだけでなく紙おむつ等のごみも増加してくるので、さらに減らさなければならない。  
各市でごみ有料化を行っていて、やはりごみを有料化した市ではごみが減っているらしいが、一体どれくらいごみが減り、経費は掛かるか等の試算はあるか。
- 家庭ごみ有料化実態調査報告書によると、家庭ごみを有料化した市のごみの平均減量率は、21%とのことである。家庭ごみ有料化を実施した場合の経費の試算については、収集方式を家庭ごみ有料化に伴い、ステーション方式から、戸別収集に変えることにより、収集運搬委託金が上がり、年間4,200万円程度上がる見込みであった。

- 東京都内の市では、何市がごみ有料化を行っているのか。
- 有料化を行っているのは19市である。行っていないのは、7市である。
- 三市の間処理施設も建て替えの時期に近づいていて、そろそろ具体的に、家庭ごみ有料化の時期を決めても良いのではないか。ごみの有料化を行えば、資源化意識も高くなり、集団回収についても効率が良くなるのではないか。戸別収集についても魅力的である。
- 家庭ごみ有料化は、有効かもしれないが、市民に負担を与える家庭ごみ有料化を実施するのは、家庭ごみ有料化以外のやるべき施策を全て行ってからという考え方である。
- 確かに家庭ごみ有料化を進めるにあたり、市民の反発も予想される為、慎重に行う必要がある。市から頻りに文書が届き、大部分がごみになってしまう。家庭ごみ有料化以外のごみ減量の方法として、市から届く文書の簡素化が必要ではないか。
- 紙の減量には、工夫が今後、必要である。
- 家庭ごみ有料化を行うのであれば、紙おむつが多量に出る高齢者等のことも考えていかなければいけないのではないか。他にも経費を削減して実施する方法等を考えていく必要がある。また家庭ごみ有料化を行った市の市民がどのようにごみを減らしたかを分析し、教育の場で活用できれば、意識向上につながるのではないか。
- 家庭ごみ有料化で減量した21%のごみとは、何のごみか。
- 有料化対象ごみである可燃ごみと不燃ごみである。
- 他のごみは、有料ではないのか。
- 他市の例から見ても、可燃ごみと不燃ごみだけ有料にするのが、一般的な方法である。この方法により分別が推進される。
- 生ごみ処理機器の補助金についての成績はどうなっているのか。
- 毎年、申請件数は低下しつつある。
- 生ごみを水切りすることを啓発するだけでも違ってくるのではないか。学校でも、水切りを廃棄物の授業を通して、広げていけば有効的ではないか。有料化実施と併せて啓発できれば、なお効果的になりそうである。
- 水切りの啓発についても、家庭ごみ有料化と併せて行うことの効果は見込めそうである。

- 水切り等、ごみ減量に意識のない人達について、調査してみるのが良いのではないか。意識のない人達の意識付けが必要である。
  - 意識のない人達を意識付けする手段として効果的な方法の一つとして考えられるのが有料化である。
  - 有料化を行う上で、いかに市民負担を減らして行うかが必要である。
  - 現在もごみを処理する上で、経費負担があり、そのことを知ってもらう為、ごみ情報誌を発行している。
  - 今後の生ごみの資源化については、市では、何か考えているのか。
  - 生ごみの資源化事業が成功している自治体を視察し、武蔵村山市で効率的に可能かどうか調査中である。
  - 生ごみを堆肥にしても、使えない堆肥ができてしまうことがあると聞いたことがある。
  - 武蔵村山市で前回、モデル事業を実施した際にできあがった堆肥については、分析した結果、何の問題もなかった。堆肥の質の問題は、処理の方法次第と考えられる。
  - 視察した生ごみ処理施設ではどのように処理されていたか。
  - 久喜宮代衛生組合では、HDM システムといって細菌により生ごみを水と空気に分解する方法で処理を行っていた。
  - ごみの量が減れば処理場に払う負担金は減るのか。家庭ごみ有料化を行い、ごみが減れば負担金が減るのではないか。
  - ごみが減れば、その分、負担金は減ることになる。
  - 前回、施設見学でリサイクルセンターを見たときにレジ袋が目立っていた。レジ袋を減らすことも大切ではないか。
  - 収集の方法として袋収集を行っているが、袋を減らす工夫も必要である。
- 次回開催日は、2月25日（月）午後2時から開催することと決定する。